

バドミントン

競技



▲試合と応援で熱気を帯びる会場

風光が試合に影響するため、窓や出入り口が締め切られたような状態に近かったバドミントン競技会場・総合体育館リリオス。外気から遮断された会場は、ふるさとの名を背負った選手たちが練り広げる気迫ある試合と、その様子を記憶に焼き付けようとする観客の熱を帯びた声援によって、異様ともいえる熱気に包まれました。

各都道府県を応援する横断幕が掲げられた観客席。しかし、その観客席から送られる惜しみない声援は、都道府県概念を超越し、ただ目の前で練り広げられる渾身のプレーに送られる賛辞といっても過言ではなかったでしょう。

秋田県勢は成年男子が優勝、成年女子が準優勝を勝ち取り、男女総合成績第1位に輝きました。

▼スタンドを埋め尽くす観客



▲菅野俊助選手・佐々木翔選手(秋田・成年男子)



▲気迫あるスマッシュを繰り出す三好奈緒選手(秋田・成年女子)



▲地元秋田での優勝を喜び合う秋田県成年男子チーム



▲下崎彩選手(秋田・成年女子)



▲金子路子選手(秋田・成年女子)



▲鈕佳平選手(秋田・成年男子)▶





◀熊本県選手団の歓迎会(橋本行政区にて)

国体に参加する選手、監督の宿泊を地元の一般家庭で受け入れる「民泊」。本町では仙南地区の協力家庭124世帯において、バドミントン競技の選手・監督約470人の皆さんを、この民泊でもてなしました。選手団が到着すると各団体協力会では、地域の会館で趣向を凝らした歓迎会を行い、互いの地域の方言の違いを話すなどして交流を深める姿が見られました。

試合会場となった総合体育館リリオスには各団体協力会から応援団が詰めかけ、受け入れた各都道府県の選手に心からの声援を送り、全国各地からこの地を訪れた選手の皆さんに、まるで自分の地元で試合をしているかのよう



◀民泊受け入れ家庭での交流(披行政区にて)

民泊

▼さりたんぼ作りに挑戦し、秋田の食文化にも触れました。(愛媛県少年女子チームの皆さん)



な大きな力を与えました。

披行政区の家庭に民泊した愛媛県成年女子チームの選手は、「民泊した家庭の皆さんをはじめ、この地域全体で私たちを歓迎してくれたのがうれしかった」と話し、受け入れ家庭のご夫妻を「お父さん、お母さん」と呼ぶ姿がとても印象的でした。



▲民泊の歓迎会では、地域の子もたちと選手との交流が行われました。(石神行政区にて)



▲各都道府県を応援する横断幕が掲げられました。



▲夕食を楽しむ選手の皆さん(仙南交流センターにて)

46年ぶりとなった秋田県での国体開催。美郷町として2つの競技会の開催と民泊による選手団の受け入れという、町を挙げてのこの一大イベントを成功裏に終えることができたのも、大会運営を支えた多くのボランティアや応援のために会場を訪れてくださった町民の皆さんのご協力とご声援によるものです。

今回の国体開催で高めることができた町民総参加の機運は、これからの美郷のまちづくりにより大切なことです。秋田わか杉国体が私たちの心に残した感動と、あらためて見つめ直すことができたふるさとへの想いを胸に、これからも一緒にがんばりましょう。

ありがとう秋田わか杉国体



▲バドミントン競技をご観戦される桂宮宜仁親王殿下(写真右から2人目)

桂宮宜仁親王殿下がバドミントン競技をご観戦になるため、10月6日に総合体育館リリオスを訪問されました。当日は殿下を歓迎するため、同体育館前に多くの町民が集まり、殿下は手を振って歓迎に応えられました。

桂宮宜仁親王殿下がご来町